

この譜面は、ムトウ音楽メソッドによる3線譜<sup>\*1</sup>「クロマチックノーテーション」で記譜されています。「#」「b」や音部記号などは無く、12種類の「音の絵柄」を覚えるだけです。とてもシンプルで、短時間で覚えることができ、直感的に読譜できるのが特長です。ここでは、そのクロマチックノーテーションの特長を解説いたします。

**1 #やbなどの変化記号がない。**

クロマチックノーテーションは、八長調以外のどの調であっても、#やbなどの変化記号はありません。

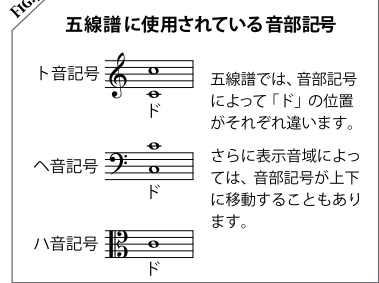
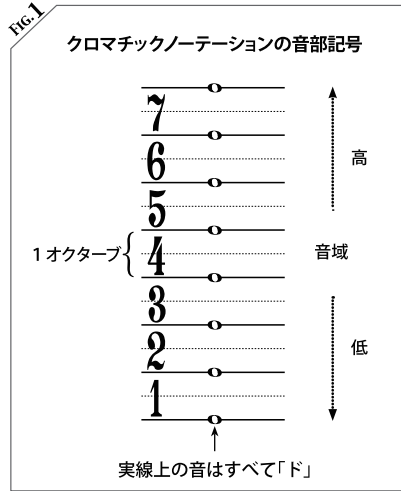
**3 黒鍵の音には名前があります。**

名前が無かった黒鍵の音に名前をつけました。これによって12音をなめらかに読むことができるので、効率良く音感や理論を習得できます。

C <sup>♯</sup> or D <sup>b</sup>	D <sup>♯</sup> or E <sup>b</sup>	F <sup>♯</sup> or G <sup>b</sup>	G <sup>♯</sup> or A <sup>b</sup>	A <sup>♯</sup> or B <sup>b</sup>
▼	▼	▼	▼	▼
di	me	fi	lu	se
ディ	メ	フィ	ル	セ

**2 音部記号がない！**

クロマチックノーテーションは、音部記号の代わりに「数字」が使われています。この数字の意味は、記されている音符がどの高さの音域を示すかを明示するために用いられています。さらに、どの高さの音域でも、実線の音はすべて「ド」となります。

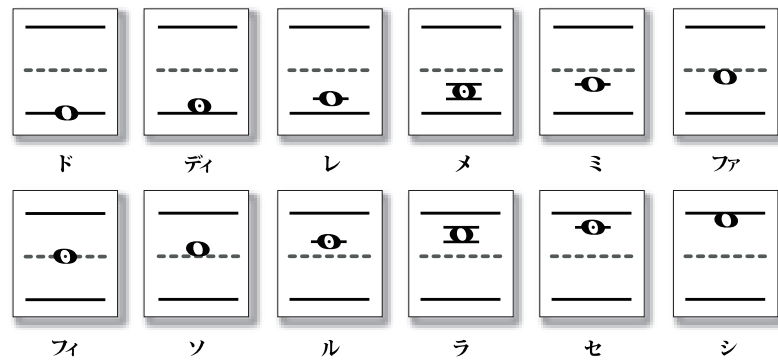


**4 1オクターブが読めればOK！** どんなに高い音でも、低い音でも同じ読み方です。

「音の絵柄」として覚えます。

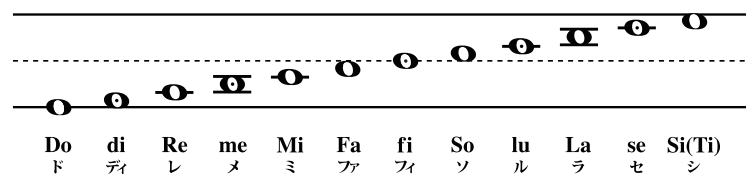
12種類の「音の絵柄」を覚えるだけで、とてもシンプルで直感的な読譜ができます。

**POINT** 太い実線は「ド」、真ん中の点線は「フィ (F<sup>♯</sup> or G<sup>b</sup>)」、「レ、ミ」と「ル、セ」は絵柄が似ていますが、実線寄りなのか、点線寄りなのか、線との距離感で識別できます。ディ・メ・フィ・ル・セには点がついていて、どれも特徴的で覚えやすくなっています。



半音階で表すと、実際の音と同じ距離感で、滑らかに並びます。

クロマチックノーテーションでの12半音階の表記



**5 「視覚」と「聴覚」の音の距離の「間隔」と「感覚」が正確に一致！**

記譜（視覚）の音と音の距離間隔（音程）と実音（聴覚）の音と音の距離感覚（音程）が正確に一致します。

それにより、メロディやスケール、コードの音程や仕組みが明確になり、自然と正しい「音感」が身に付き、音楽への「理解」が深まります。

Vo. 4/4 c  
かごめかごめかごのなかのとりはいついつ  
でやるよあけのばんにつるとかめとすべった  
うしろのしょうめんだあれ? かごめかごめ  
かごのなかのとりはいついつでやるよあけの  
ばんにつるとかめとすべったうしろのしょうめんだあれ?

\*1:「3線譜」とは、3本の基線で1オクターブを表すことができる楽譜です。ムトウ音楽メソッドを基に開発された記譜法で「クロマチックノーテーション」または「ムト譜」とも言います。